

様式 2

安曇野市農業農村振興計画推進委員会（第一回）会議概要

1	審議会名	安曇野市農業農村振興計画策定委員会（第一回）
2	日 時	平成28年6月20日 午前9時30分から午前11時30分まで
3	会 場	安曇野市役所 本庁舎4階 大会議室 西
4	出席者	佐藤進委員、池上洋助委員、久保田敏彦委員、丸山昌則委員、鈴木達也委員、 鶴見武敏委員、淺川拓郎委員、丸山秀子委員、三澤勇委員、板花守夫委員、 高橋正光委員、興智幸委員、等々力等委員、丸山和子委員、白澤幸男委員、塩野治幸委員
5	市側出席者	大向部長、大竹課長、柴野課長、高橋係長、百瀬係長、奈良澤係長、中村係長、 矢花課長補佐、丸山係長、上野課長補佐、樽沼副主幹、城取係長、請地係長 山田係長、矢島氏、赤須主査
6	公開・非公開の別	公開
7	傍聴人	0人 記者 0人
8	会議概要作成年月日	平成28年6月29日

協 議 事 項 等

1 会議の概要

- (1) 開会（大竹課長）
- (2) あいさつ（大向農林部長・佐藤委員長）
- (3) あいさつ（宮澤市長）
- (4) 協議事項
 - ① 平成27年度 進捗状況の点検作業と評価とスケジュール
- (5) その他
 - ① 今後の予定
- (6) 閉会（大竹課長）

2 審議概要

- (1) 農業農村振興計画の平成27年度 進捗状況および評価等について（事務局より資料説明）
（委員からの意見：概要）

平成26年度実施状況における今後の課題と方向性の取組状況

- ・リンゴの作業の効率化と早期収穫化のため、新わい化栽培への改植の推進を図ったとあるが、どのくらいの面積について取組んだのか、具体的に示せるようであれば示してほしい。

農業で「稼ぐ」～経営する～

【経営基盤の見直し】

- ・基盤の確立は進んだが、米を中心とする土地利用型農業について飼料用米加工用米に転換するか（国）、高品質の安曇産主食用米を重視するのか（市独自）、方針を決めていく必要がある。
- ・農業振興地として農業をする場所を示し、ほ場整備されていないところについて整備を進めていく必要がある。

【ブランド力の強化】

- ・「風さやか」の推奨をぜひお願いしたい。また、安曇野のお米は安曇野の名前で売っていく必要があるのではないか。
- ・安曇野が産地とわかるような認証する仕組みがあればいいのではないか。
- ・販売の川下は数多くあるが、川上で生産するブランドがないため、市をあげた方策を考えていく必要がある。
- ・手法の一つとして他産業との連携をととして、安曇野のブランドの構築を目指したらどうか。
- ・市とJAの連携を強めるような組織改革の動きを進めるなど、検討する必要がある。

【6次産業化等の推進】

- ・海外輸出について、補助を含めた検討が必要ではないか。

【部門別の推進方針】

- ・技術的研究や支援は進んでいるが、技術指導や情報交換のシステムが必要ではないか。また、国の補助では不十分なものがあるので、振興の対策を将来に向けて考えてほしい。

□ 田園で「守る」 ～維持する～

【後継者・新規就農者の確保および育成】

- ・農業を新しく始める人と、辞めてしまう人の土地の情報を取りまとめてほしい。

【中山間地域の向上対策と荒廃農地対策】

- ・中山間地域の農地維持と管理について、高齢化が進んでいるので荒廃農地とならないよう、天王原のような取組が必要ではないか。
- ・明科天王原におけるワイン用ブドウ園の再生に着手した事例をはじめ、安曇野市での農業農村振興の事例について、積極的に市民にもPRしつつ各地での取組を支援したらどうか。
- ・農地を貸し出すことに抵抗のある農家もあると思われ、市としても促進している情報を発信する必要がある。
- ・中山間地域等直接支払交付金の活用と荒廃農地解消の取組について、荒廃しそうな農地の情報収集が必要ではないか。

□ 安曇野で「生きる」 ～暮らす～

【地産地消の推進】

- ・安曇野産のものを安曇野の人が食べているというのはフィクションであり、実際は食べていない現実がある。足もとをどう固めるかが、農家を支えるという点でも大きな問題である。また外から安曇野を見て、農でまとまっているというような強烈なインパクトをどのように持たせるかといった議論が必要である。
- ・食農はともに小中学校において現在も実施されているところであるが、現在のカリキュラムにさらに追加するとなると、他の教科等との兼ね合いがあり難しい。カリキュラムの一層の柔軟性を考え、視点を変えるなどして取り入れられるような工夫が重要ではないか。子どもたちに考えさせ、現場の教育の中に農家も参加できるような状況を設定してもらいたい。

以上